

TOHATSU

PARTNER

2017年1月1日発行/新年号 Vol.100



Photo:初日の出

C O N T E N T S

●年頭ご挨拶	P2	●講習会開催(九州・山口、東北、山形県、関西)	P10
●第25回全国消防操法大会	P3	●東北トーチポンプ会秋季総会	P10
●PARTNER100号のあゆみ	P4~5	●トーチポンプ中央会秋期総会	P10
●100号特集記事・販売店インタビュー	P6~7	●ベトナム・ハノイにてExhibitionが開催	P10
●横浜ボートフェア2016	P8	●新潟と大阪で車両納入しました	P11
●いずみさ関空マリーナ・ボートショー2016	P8	●長野県上田市女性消防隊様が駒ヶ根工場見学	P11
●海フェスタ東三河	P8	●高知県消防団様、滋賀県消防団様が駒ヶ根工場見学	P11
●マリンカーニバル2016 in 豊洲	P9	●駒ヶ根ハーフマラソン悲願の総合優勝	P11
●マリンチャレンジ2016 in 豊洲	P9	●危機管理産業展2016	裏表紙
●リトルボート販売試乗会 in 大阪堺	P9	●欧州ディストリビューターミーティング	裏表紙
●フィッシング光栄様レンタルボート大盛況	P9		



トーチポンプ株式会社

<http://www.tohatsu.co.jp>

平成29年 年頭ご挨拶

トーハツ株式会社 代表取締役社長 日向 勇美



平成29年の輝かしい新年を迎え、謹んで年頭の御挨拶を申し上げます。

平素PARTNERを御愛読の皆様には格別の御高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、1932年10月にタカタモーター製作株式会社として設立された弊社は、お陰様で今年85周年を迎えることになりました。これもひとえに皆様の御支援、御愛顧の賜物と心から感謝致しております。

振り返りますと昭和の前半、太平洋戦争の真っ只中に弊社はタカタモーター製作株式会社として会社を設立し、当時は、陸軍から依頼された発動発電機、動力伐採機及び無線用発電機等を製造、納品しておりました。新しい技術に対する探究心から、会社設立3年後には船外機の開発に着手し、旧陸軍には「操舟機」、旧海軍には「舷外機」と呼ばれた今日の船外機の原型となる製品を開発した旨社内には記録が残っております。創業者の想い、即ち新しい技術に対する探究心と「モノづくり」に対する熱意を次の10年、20年に向け、大切にしていきたいと思っております。その様な思いから、今期から弊社では「創る楽しみ、信頼される技術を世界に！」を新たな経営ビジョンに掲げ、新製品の開発推進と将来に向けた先行研究開発にこれからも積極的に挑戦し続けて参ります。

中東情勢の緊張と上海株の急落により、昨年は年始早々の1月4日に日経平均株価が582円安と大幅に下落、円相場も\$1=¥118台の円高水準を付ける等、波乱の幕開けでスタートしました。その後もイギリスのEU離脱問題や米国大統領選挙、米国の利上げ観測等により、為替相場の乱高下が続きました。先行き不透明な状況下、製造業を取り巻く環境は決して良好とは言えませんが、会社設立85周年を迎えるに当たり、全社員が一丸となって、気持ちを新たに邁進して参ります。何卒旧年に増しての御支援、御鞭撻を賜ります様宜しく御願い申し上げます。

会社設立85周年と共に、本誌PARTNERも早いもので本号をもちまして100号目を迎えることが出来ました。この場をお借りしまして、皆様の御愛読に心より感謝申し上げます。

最後になりましたが、新しい年が皆様にとりまして幸せな年となります様、心から祈念申し上げます、年頭の御挨拶とさせていただきます。



VC72PROII 優勝!!

第25回全国消防操法大会
三重県伊賀市消防団優勝

第25回全国消防操法大会が、去る10月14日（金）秋晴れの空の下、長野県にある南長野運動公園（長野オリンピックスタジアム）で開催されました。2016年4月に発生した熊本地震を受け熊本県の代表チームは出場を辞退しました。都道府県大会を勝ち抜いてきた各消防団の精鋭たちが日頃の訓練により培った消防操法技術を競い合い、見事な操法を披露しました。

今大会の小型ポンプの部には、都道府県の代表22チームが出場し、弊社トナーポンプをご使用いただいている消防団は15チームとなり機種はVC72PRO/PROII / PROIII Limited、VF63ASとなっていました。

出場1番目に操法を披露した静岡県・焼津市消防団はトップバターのプレッシャを跳ね除け93.0点（42.54秒）と見事な得点をマークしました。出場2番目に三重県の伊賀市消防団は95.5点（41.58秒）とさらに高得点をマークし優勝の栄冠を獲得しました。

また、同時開催された「地域を守る消防防災展・消防団の交流物産展」では特産品販売コーナーや消防機器展示コーナーなどが立ち並び、消防関係者、応援団、地元市民が訪れて大いに賑わっていました。その中で弊社の展示ブースでは水陸両用車をはじめ、3.5トン未満積載車、フローティングストレーナ、VC72PROIII Limited、技術部の参考出品タイム計測アプリを中心に展示し、終日消防関係者などで混み合い大盛況のうちに幕を閉じました。

成績発表は別表の通りとなり、優勝、準優勝に弊社のポンプが入りました。この好成績は、消防団の皆様のおかげで納めることが出来ました。

三重県伊賀市消防団の皆様、優勝おめでとうございます。またトナーポンプで出場された各消防団チームの皆様には、誌上から厚くお礼申し上げます。（防災課／高橋）

VC72PROIII 準優勝!! Limited



静岡県 焼津市消防団

成績	都道府県名	消防団名	ポンプ型式
優勝	三重県	伊賀市消防団	VC72PROII
	長崎県	大村市消防団	他社
準優勝	静岡県	焼津市消防団	VC72PROIII Limited
	長野県	川上村消防団	他社
優良賞	鳥取県	米子市消防団	VC72PROII
	茨城県	阿見町消防団	VC72PROII
	福岡県	須恵町消防団	VC72PROIII Limited
	栃木県	益子町消防団	VC72PROIII Limited
	福井県	嶺北消防組合 坂井消防団	VF63AS
	秋田県	横手市 山内消防団	VC72PRO



販売店の皆様と共に歩んできました

PARTNER

1989 VOL1

良好なエンジンレスポンスを実現！多くの新機種を搭載し
パワーと快適さを極めた最速グレード M140A/M120A

クラスNo.1の力！機能充実のNEW40PS



クラスNo.1の力！機能充実のNEW40PS

クラスNo.1の力！機能充実のNEW40PS

2000 VOL44

TOHATSU PARTNER

2000年4月15日発行 専売 VOL.44

21世紀へ、飛躍！



2001 VOL47

「最新？いれられたかえりまた来た」と驚愕の瞬間

「MD50A船外機の素顔」

「最新？いれられたかえりまた来た」と驚愕の瞬間



1994 VOL18

北の国から 南の町より……

■販売とアフターサービスに毎日か専念 小浜モーターズ

■アドバイザとして、TDF-235の開発にも協力をした船外機のポートマン



1995 VOL25

トヨタ自動車株式会社 創立50周年記念

トヨタ自動車株式会社 創立50周年記念

トヨタ自動車株式会社 創立50周年記念



2000 VOL44

小型消防ポンプのトップランナー TOHATSU (新製品) 続々登場！

■最新主力機 (V75シリーズ) ■最新主力機 (V75シリーズ)

■最新主力機 (V75シリーズ) ■最新主力機 (V75シリーズ)



2002 VOL53

トヨタがアメリカに新会社 トヨタ・アメリカ・コーポレーションを設立

「サンボード」の最新式に搭載社長が歩む

トヨタ・アメリカ・コーポレーションを設立



平成元年 11月

船外機120馬力、140馬力を生産、販売開始する（7機種ラインナップ）。

平成6年 4月

トヨタ特約販売店様ご紹介。

平成7年 7月

創立10周年おめでとうございませう。

平成10年 4月

4ストローク船外機を生産、販売開始する。

平成12年 2月

フルカバードタイプ可搬消防ポンプVVCシリーズを生産、販売開始する。

平成12年 4月

本社ビル竣工。板橋区小豆沢3-5-14に移転する。4ストローク直噴船外機TLDI（筒内直接燃料噴射方式）を生産、販売開始する。

平成13年 1月

ユーザー様に急遽のなご意見を伺いました。

平成13年 7月

岡谷工場 ISO9002取得。

平成13年 8月

東京工場 ISO9002取得。

平成14年 5月

米国に販売会社TOHATSU AMERICA CORPORATION (TAC社) を設立、業務開始する。

100号のあゆみ

100号記念

2007 VOL.73

設立75周年「社史」を刊行

「75周年からの復興と発展への日々を刻む」

75周年を記念して、創業以来の歴史を振り返るとともに、現在までの歩みと今後の展望をまとめた「社史」を刊行しました。この「社史」は、創業以来の歴史を振り返るとともに、現在までの歩みと今後の展望をまとめた「社史」を刊行しました。

2011 東日本大震災 被災地消防団車等緊急支援

東日本大震災発生後、被災地消防団へポンプ車等緊急支援を行いました。被災地の復興と発展への日々を刻む。

2011 VOL.84

TOHATSU PARTNER

2011年10月1日発行/総巻 VOL.84

東日本大震災被災地消防団車等緊急支援

東日本大震災 被災地消防団車等緊急支援

(前) 日本消防協会専号

東日本大震災発生後、被災地消防団へポンプ車等緊急支援を行いました。被災地の復興と発展への日々を刻む。

2004 VOL.63

広い現場で置かれる製品供給を

ISO9001(2000)14001継続改善活動の年

広い現場で置かれる製品供給を確保するため、ISO9001(2000)14001継続改善活動を行いました。

2005 VOL.64

トヨタ・ホンダ・ヤマハ製品の生産拠点

トヨタ・ホンダ・ヤマハ製品の生産拠点を拡大し、製品の供給を確保しました。

2007 VOL.74

2007 VOL.74

「危機管理産業展2007」開催

「危機管理産業展2007」を開催し、最新の危機管理技術を展示しました。

2011 VOL.84

2011 VOL.84

水消滅型スプリンクラー組立装置の導入

水消滅型スプリンクラー組立装置を導入し、製品の生産効率を向上させました。

平成16年3月 本社・技術部／東京工場ISO9001取得。

平成16年7月 本社・技術部／東京工場ISO14001取得。

平成17年1月 駒ヶ根工場竣工。トヨタ・ホンダ・ヤマハ株式会社を長野県駒ヶ根市に移転する。

平成19年1月 4ストローク小型消防ポンプを生産、販売開始する。

平成19年8月 東京工場を閉鎖し、駒ヶ根市にポンプ製造工場を集約。駒ヶ根工場として操業開始する。

平成19年10月 設立75周年「社史」を刊行。

平成23年3月 4ストローク小型消防ポンプが(財)日本消防設備安全センターより消防防災製品等として推奨される。動力消防ポンプとして国内初認証推奨番号(推奨防災第11号)。

平成23年3月 東日本大震災発生。被災地消防団車等緊急支援を受け、各被災地の消防団へポンプ車等を配送。

平成23年10月 代理店様に感謝状が贈られました。

川村社長、熱い思いを語る！

カワムラ船舶機械 川村孝行 社長

カワムラ船舶機械代表、川村孝行社長。北海道最北端の町である稚内市の西方海上、北の浮島と呼ばれる利尻島にてトーハツ船外機を扱いだしてもう38年になる。その川村社長が忘れられないパートナー掲載の写真があるという。それは、何度かパートナーに掲載された利尻島巡回サービスの利尻島内斜路の写真。川村社長が仕事の拠点を置く島内鬼脇地区最大の斜路である。

同氏がこの仕事を始め、トーハツを扱うようになった頃に抱いた目標があった。「自分の本拠地であるこの斜路の船外機を全部トーハツにしてみせる！」。そしてそれが現実となった事を証明する、斜路にトーハツ船外機がズラッと並ぶ写真。もちろんすべてトーハツ製だ。その写真がパートナーに掲載されたのを見たとき、同氏は涙がでるほど嬉しかったと語る。そして、一つの達成感を噛みしめ、更なる目標を抱いた瞬間でもあった。「他にも全部トーハツの斜路を増やす！」と。

利尻島内では、現在もオールトーハツの斜路が増え続けている。この事は同店の尽力無しでは成し得ない事であり、心より感謝の意を表する次第である。そして、いつかまた、【オールトーハツの島、利尻島】の写真をパートナーに掲載するべく走っていくと、極寒の地で熱く語ってくれた。

(北海道地区担当/菊谷)



同じ時代をともに歩む

(株)南総鉄工所 田中重夫 元専務

「トーハツPARTNERがでるのをいつも楽しみにしているよ。」とおっしゃるのは、千葉県勝浦市で房総の水産業を長年下支えされてこられた、義理堅く人情深い人柄で知られる(株)南総鉄工所の田中重夫元専務(92才)。

(株)南総鉄工所の創業は大正10年、当社の前身となる高田益三が東京の京橋にタカタモーター研究所を設立したのが大正11年であり、お互い大正から現在まで同じ時代を日本の変遷と共に歩んできました。

船外機は、当社が昭和31年発売した国内初の量産機OB-1(1.5馬力)からお取扱い頂いており、相互扶助と発展に向けた60年の永きお付き合いとなる。ただしOB-1の発売当時は船外機という未知の機械に対する市場認識は皆無で、全くヒットせず販路開拓のため自費でデモ機を市場に投入するなど相当のご苦労をされたそうですが、その甲斐あって昭和34年に発売したOB-2A(2馬力)によってその苦労が開花し、平成36年に販売を開始したOB-2B(2.5馬力)は、当時の市場価格が2万円の高額製品にも拘らず、常時50台の在庫を持って千葉県漁業組合連合会とタイアップし、房総半島の漁港に数多く供給されていきました。また昭和39年、それまでの空冷式エンジンから初の水冷式エンジンを採用したBO-10A(6馬力)を発売した際は、そと海の外房市場に合わせ、自らUL仕様を考案試作し、当社に採用を持ちかけ製品化され、船外機の更なる普及に大きく貢献されました。

その後も固い絆によって互いに様々な課題を乗り越え、現在もトーハツのベストパートナーメンバーとしてトーハツ船外機一筋でご尽力頂いています。(マリン営業部/坂井)



毎回「釣り大会」を掲載

三好マリンモータース 三好孝行 社長

四国のトーハツ販売店で長年に渡り、多くのトーハツ製品を販売頂いております、三好マリンモータース 三好孝行社長に、今回トーハツPARTNER発刊100号記念について取材致しました。

「トーハツPARTNER発刊100号おめでとうございます。」

当社は、四国の瀬戸内地区の愛媛県四国中央市に販売拠点を設けております。近隣には有名な製紙工場が多く立ち並び、昔から日本の産業に大きな役割を果たしております。現在はコンピューターの発展に伴い、紙を使用する目的が少なくなり、縮小気味です。

あの頃(2007年)都会ではバブル経済も終わり、不安な状況でしたが、マリン関係には低価格のセット艇が、各社競うように毎年新発売され、当地区にも製紙業界や建設業界の経営者や従業員さんが購入頂き、とても活気にあふれ、釣り大会の景品も毎年高額化して人数が増えておりました。

PARTNER記事に至っては毎年発表の展示会やボートショーなど様々な記事が書かれて、各地で人気があることを窺えました。

2009年から、プレジャーボートを購入いただいたお客様やそのご友人などが集まり、メーカーの協賛・協力のもと、盛大な釣り大会を15年間にわたり開催させて頂き、PARTNERにも毎回掲載頂き、お客様も大喜びでした。

今も事務所の正面に当時の「釣り大会」の写真を飾っておりますが、当時参加されたお客様などは、とても懐かしくお話し致します。

トーハツPARTNERには、マリンや消防ポンプだけでなく、より多くの販売店に情報発信する為、トーハツの情報もより多く掲載して頂ければよろしいかと思われます。

今後大きな発展を遂げられ、ナンバーワンでなくオンリーワンの商品を開発して頂き、益々の発展とPARTNER増刊号を継続発行される事を心よりお祈りいたします。

(マリン関西/中野)



インタビュー

PARTNERは1号から愛読

湯之元モータース 東瀬戸 社長

鹿児島県の湯之元モータース・東瀬戸社長に、パートナーについてインタビューを行った。当社との関係は長く、バイクの販売・修理から始まり、現在は船外機の販売・修理だけでなく地元消防団との結び付きもあり消防ポンプの修理も行い、59年来のお付き合いをさせていただいています。

東瀬戸社長は、PARTNER1号発行から愛読され、全国のマリン・防災の活動の記事を読むのを楽しみにされています。

「PARTNERの記事で印象に残っている記事は、東日本大震災が発生後に発刊されたPARTNER84号で被災地の漁師さんが一日でも早く出漁できるよう、船外機・和船納入支援活動、消防車両の緊急支援活動などの復興に向けてのトーチの迅速な取り組みに感銘を受け、自分自身も中古の船外機・ポンプを復興支援活動に活かさないか行動したのを覚えている。

最後に、PARTNER100号発刊おめでとうございます。今後も全国のマリン・防災の活動情報満載のPARTNERを楽しみにしています。」

(マリン九州/榎本)



トーチ時代の思い出

米山商事株式会社 米山治助 専務取締役

今回、PARTNER100号という事で弊社をよく知る「米山商事株式会社」の米山治助専務取締役にお話を伺った。

トーチに昭和33年に一般採用にて入社された当初は、オートバイの車体の溶接や材料について調べる今の品質管理課に所属していた。特段ポンプを専門で見ていたのではないそうで、「一カ月に一回は作文を書いていた」と苦笑いされていた。その後昭和37年にお父様が他界され米山商会(現・米山商事)に戻られオートバイ、自転車を中心に販売。バイクをトラックでトーチまで取りに行っていたそうだ。

昭和39年にトーチは倒産しているが、倒産当日従業員は何も知らされておらず、工場勤務の社員は始業を待っている状態だったそうだ。当時、トーチ自体に保全命令が出ていた為、直接製品をトーチより運び出す事ができなかったが、運送会社の倉庫にあるものは対象外だった為、そこからトラックで運び出して出荷し、納期遅延などで客先に迷惑を掛ける事無く製品を納めていたという。

発電機のエンジンは元々陸軍の仕様で価格は当時で20万円と高価でとても重たかったものの小田原の消防署などに売れた。その後ヤマハ、ホンダが軽量のものを出したが、それでもやはり「発電機と言えばトーチ」だったのが揚水ポンプの「VS」が軽量で性能がよかったとお話されていた。

昭和47年から平成8年まで発売されたV38シリーズは大人気モデルで、場所によっては今もなお現役で活躍しているポンプであるが、以前より発売していたVMから切り替わり、耐久性、整備性、扱いやすさが格段に向上してホッとしたそうで「38シリーズは片手でモリコイルが引けてエンジンがかかった。VMは色々コツがあり大変で危なかった」と振り返る。

—これからのトーチについて—

「トーチはなくなる事はないと思う。だが、いつまでも同じようにはいかない。自動化などいいが、可搬という枠にとらわれず車も含めた消防のポンプメーカーであって欲しいと願っております。」

(防災中央/佐藤)



トーチ小型動力ポンプの思い出

関西トーチポンプ会会長 宮前憲次 様

関西トーチポンプ会会長 宮前憲次様よりトーチ小型動力ポンプの思い出を語っていただきました。

「日頃は、関西トーチポンプ会の運営にご協力いただき、ありがとうございます。

私が、防災業界に飛び込んだのが平成3年でした。前職は全然畑違いな業種で右も左もわからず、ましてや大阪出身でしたので消防団の存在すら知らない状況でした。それでも徐々に知識を付けていき、やっとお客様とも色々営業のお話ができるようになった頃、神戸淡路大震災が起きました。当時、市内に小型消防ポンプは配置されていませんでした。しかし、大震災の状況を経験し配置が必要となりました。2年計画で約120台、弊社は1年目の60台。台車付きで、その量は膨大でした。夜明け前に10トン車が、弊社の借りた倉庫に横付けされ、降ろしたのちに整備にかかります。そののち、借りたレンタカーの大きなトラックで配達。トーチさんにも総動員でバックアップしていただき、無事納品は終わりました。今までの中で、一番大きな思い出となりました。

これからも、トーチさんと一体となり、地域の安全・減災に努めて参ります。」

(防災関西/田村)



横浜 2016 フローティングショー

秋の気配も次第に濃くなり穏やかな季節を待ちわびる中、秋の関東最大級フローティングショー 横浜ポートフェア 2016 が、10月7日（金）より9日（日）までの3日間、横浜ベイサイドマリナーにて開催されました。

横浜ベイサイドマリナーは、日本屈指の規模で知られる施設で、国際ポートショーにおけるフローティング会場としても知られています。また、併設されるアウトレットモールには、週末多くの人で溢れます。ショッピングで楽しみ、マリナーに係留されるさまざまな船舶を見ながら、家族、友人たちと一日中楽しむことができる会場です。

今年のトータップスは、TFW-25R に BFT90A をフローティング会場に展示。最高峰のフィッシングボートと、パワフルな船外機がセットされ、フィッシングを充分に楽しむための空間とユーザー好みに仕上げる楽しみ方が最大の売りとなっています。一方、ボードウォーク会場には、小型で軽量が魅力の4ストローク2馬力船外機 MFS2B を展示。船舶免許不要のミニボートでも人気の本機は、余裕ある排気量、船外機メーカーとしての信頼性と魅力が来場者を惹きつけていました。

期間中は、雨風激しくなる天候も見受けられましたが、豪華なクルーザーを見たり、ロープワークを活用したストラップ作りなど、子どもから大人まで、マリンレジャーを多くの方々に知ってもらいイベントとなりました。続々と発売されるトータップ製品の魅力に今後ともご期待ください。
(マリン課/大坪)

いずみさの関空マリナー

フローティングボートショー2016

秋の観光シーズン真っ只中の11月5日（土）と6日（日）に開業20周年を迎えた、いずみさの関空マリナーにてフローティングボートショーが開催されました。

多数のボート業社が参加したこのイベントはニューモデル・輸入艇・中古艇・大型艇と並ぶ中、『もっと身近に…もっと親しみやすく…』のキャッチコピーに親水と普及振興を目的としたミニボートコーナーも併設されました。

当社はそのミニボートコーナーに乗って楽しむゴムボート体験試乗を行いました。

普段はあまり見られないゴムボートに乗れるとあって、通常はレンタルで釣りをされる方や、釣り具店でしか見たことがないのだが、実際に乗ってみたいと言う方々が来場され「好きなところへ積んで行ける」「手軽に買える」「思ったより走る」と、機動力、パフォーマンスの高さに感心されておりました。

近々購入を予定されているという方も試乗が出来るとあってご家族ともども来場され、細部にわたり質問を受けるなど、ゴムボートに興味を持っていただけた方が多く内容の濃い2日間でした。

出展に際しご協力を頂きました販売店、協賛いただきました各社の皆さま、誠に有難うございました。
(マリン関西/田中)



海フェスタ東三河

この空と東三河の 海が好き

毎年、海にゆかりのある自治体で開催されている海フェスタは「海の恩恵に感謝し、海洋国日本の繁栄を願う日」という「海の日」本来の意義を再認識し、海に対する関心を持つことを目的としています。

平成28年の海フェスタ東三河は、愛知県三河港周辺の東三河8市町村で開催されるもので、海・川・港の魅力や重要性を次の世代へ繋げ、多彩で豊かな地域資源の魅力を全国に発信することを基本コンセプトとして、三河港の活性化、東三河地域全体の発展に繋げる目的として7月16日（土）から31日（月）まで開催されました。

マリン事業協会中部支部では海フェスタ東三河イベントを盛り上げるべく「三河湾ボートフェスタ」として体験乗船や体験クルーズを開催致しました。

近隣の小学校やホームページ、新聞に掲載されたことから、たくさんの家族連れがお見えになり、ボートを身近に楽しもうと熱気に包まれ各社のボートがフル稼働しておりました。

トータップはアキレス様と共同のミニボート体験試乗会を開催し3日間で100名の乗船があるなど、家族連れに大人気でした。手軽に乗れるゴムボートの価値にたいへん満足され、早速購入を検討される方も多く、大変有意義な親水事業であり普及振興活動でありました。

ご協力を頂いた販売店様、協賛いただいた各社の皆さま誠に有難うございました。

(マリン関西/田中)



マリンカーニバル2016

in アーバンドックららぽーと豊洲

マリンチャレンジ2016 開催



シーズン開幕を告げるような快晴となった6月4日(土)~5日(日)、人気の臨海スポットにある複合商業施設ららぽーと豊洲にて「マリンカーニバル2016」が今年も開催されました。

恒例となりつつあるこのイベント。今年もたくさんの方々にもマリンレジャーの楽しさを体感してもらおうとイベント期間中、様々な展示・企画が行われました。

「世界で活躍する日本の船外機」と銘打ったコーナーには各船外機メーカーが1つのテントに集結しそれぞれ特長ある展示物が並びました。当社はMFS30Cのカットモデルを展示し最新技術が詰め込まれたエンジン内部を来場者にじっくりと見て頂きました。

一方で「誰でも気軽にボート遊びを」をテーマに、ライト&エコスポーツで人気のMFS50Aを搭載したTFW17-Rをトレーラにセットして展示。フラットで広々とした船体は元気いっぱいのお子様にも大人気。展示中、たくさんの子供たちが乗船しハンドルを握り船長気分で大はしゃぎする姿を見て私自身も乗り物に乗ったときの動かしやすさの時のわくわくする感覚を持ち続けていたいと感じました。

ボート遊び以外にもシーカヤックの試乗や大きなサーフボードに乗ってヨガを楽しむSUPと呼ばれる今注目のマリンスポーツの体験など来場者がマリンレジャーに興味を持つような企画が目白押しだったこのイベント。需要拡大につながるいい機会となった2日間でした。

(マリン課/松下)

『マリンカーニバルの次の週末は夢の島と若洲へみんなでいこう!』のキャッチフレーズのもと、豊洲ららぽーとを会場に行われたマリンカーニバルの翌週、6月11日(土)、12日(日)の2日間にわたりマリンチャレンジ2016が開催されました。マリンチャレンジは、マリンレジャーへの関心を深め、舟艇の利用振興及び海洋教育の推進を図るとともに、2020年東京オリンピック・パラリンピックに向け、マリンスポーツの振興を目的としたイベントです。

“体験と実感”ができるマリンプログラムが来場者を迎え、ボートのほか、ディングー、カヌー等の乗船やマリンレジャーを安全に楽しむためのワークショップ等も、障がいのある、年齢、性別に関わらず、誰でも幅広い方に体験していただけます。

トーハツは、夢の島マリーナ会場に、TFW-25R+BFT90Aをご用意。幅広く安定した船体に、操船の愉しさを併せ持ったTFW-Rシリーズの試乗の機会とあって、フィッシングを目的とした釣りファンが訪れる中、豊洲マリンカーニバルをきっかけに来場されたファミリー層も多く体験乗船に参加されました。

東京湾の newName 所ゲートブリッジや羽田空港の発着の様子を間近に見ながらクルージング。ディズニーパーク前のエリアでは、海上から見えるシンデレラ城をバックに船上で記念撮影など楽しみ、お子さんから大人まで、みなさん笑顔で過ごされました。また、このイベントの目玉でもある操船体験エリアでは、憧れのステアリングホイールを握って船の操縦に挑戦。同乗した家族の歓声があがる中、風や波を感じながら操船の面白さを十分に味わっていました。

河口に近いこともあり若干波をかぶるシーンもありましたが気分は爽快。開放感あふれる船上の時間は、あっという間でした。幅広いマリンレジャーの中でも、友人や家族とボートを使った休日の過ごし方が、いかに身近に楽しめるのかを提案できたイベントとなりました。

(マリン課/大坪)

リトルボート販売試乗会 秋の陣



初秋を迎え、日差しが少しずつ短くなる今日この頃、大阪堺市の新浜寺マリーナには毎年恒例の、リトルボート秋の陣 小型ボート試乗会が9月10日(土)11日(日)に開催されました。当日は晴天で、まだ夏の鬱陶気な風が肌を通り過ぎ、汗が噴き出す暑さでした。今回は5月の伊勢志摩サミットで活躍しましたアキレスゴムボート(HB-385DX)+MFS20DLを試乗艇として御用意致しました。

ほとんどのお客様はHB-385DX+MFS20DEFLのセット艇を試乗されると、他のボートには乗れなくなる事が多く、最後に試乗して頂く事が多かった様に見受けられました。FRP底のゴムボートで滑走迄にかかる時間が短く、波に乗れば爽快で、又小回りが効き、とても楽しく乗れると感じておられました。HB-385DXは20馬力バーハンドル仕様でしたら3人乗船でも充分な走りですが、丸ハンドル仕様になれば高馬力の搭載も可能でもあります。

リトルボート販売では以前から同型艇の販売も手がけており、すでに数艇販売実績があります。主に防災救助用・警備艇に使用されておりますが、最近ではレジャー用としても注目される可能性があり、今後も更なる期待を持たれる事でしょう。

今回は特別に田原社長が、自ら三重まで出向き苦勞して、引取りに行ったボートですので、とても良い体験をされた事と存じます。

次に、夏のリオ五輪も終わり、日本勢も多くのメダリストが現れました。又、2020年の東京五輪も、より多くのメダリスト輩出に多に期待しております。

今回そのメダリストに期待を込め、リトルボート販売でも2重底・自動排水の小型FRPボート「MeDalist」を発売する事となりました。トーハツMFS6CS搭載して爽快に疾走する姿は、まるで小型FRPボートのメダリストになれる予感がなんとなくありました。

主に2馬力搭載でレンタルボートでの販売へ期待しておりますが、今後は防災やレジャーボートに活躍されて日本全国にメダリストを輩出していただきたいものです。

2日間で多くの試乗をして頂いたお客様が五輪に負けない位の良い感動を持ちかえった事と思っております。

昨今、係留艇のユーザーは減少しており、手軽で持ち運びに便利なゴムボートやトレーラブルボートも伸び悩んでおります。それに比べレンタルボートなどは増加傾向で今後期待できるかと推測します。しかしながら、車やボートは近年では試乗しないと乗り心地や居住性などの使い勝手が重要でありますので、リトルボート販売はおお客様のニーズのお答えする様、できるかぎりの試乗艇をご案内していく事と思っております。今後もTOHATSUとの絆を大切に未来への共有を行って行くと思っております。

リトルボート販売HP「おやレブログ」は田原社長が、日常生活や仕事の情報を掲載しており、閲覧者も年々増加をしております。

試乗会や釣り大会なども掲載されておりますので、特に釣り好きの方は是非一度ご覧になって下さい。

(マリン関西/nakano77)

「フィッシング光栄」様が 釣りファンに人気 大盛況!!



三重県紀北町は、日本でも有数の多雨地帯の中にあるため、見事な森林を育成させ、夏は涼しく冬は温暖の地です。なかでも、「紀伊山地の霊場と参詣道」として2004年世界遺産に登録されている「熊野古道」は、皇太子さまが散策を楽しまれた美しい石畳が残る馬越峠をはじめとして5つの峠があり、癒しの空間の中にいにしえ人の心が息づいています。

また黒潮の踊る熊野灘に面して、古きより漁業が盛んに行われ漁業種類は数多くあり、様々な漁法が盛んで、黒潮が運んできた種類豊かな魚のおかげで、サバ、アジ、イサキ、イワシ、カツオなど一年を通して釣りファンに人気の場所です。

三重県紀北町はリアス式海岸に面し釣りに適した絶好のポイントが多く10月よりアオリイカの本格的なシーズンインとなり時には4kg超えの大家物!!

そんな中、三重県北牟婁郡紀北町紀伊長島区三浦漁港でレンタルボート店を営む『フィッシング光栄』様はレンタル艇にトーハツTFW-19B、21Bを採用し連日予約が殺到する人気ぶり。オーナーはトーハツの大ファンで2年前に購入頂いたMFS40Aは「ノントラブルで調子も良くレンタルしても安心」と語ります。

今後も益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。

(マリン中部/山中)

* 講習会開催 *

～九州・山口トーハツポンプ会～

九州・山口トーハツポンプ会では、去る 11 月 4 日 (金) 福岡市 東洋ホテルで技術講習会を開催され、総勢 19 名の方に参加いただきました。

ポンプ会澤田会長のご挨拶後、4st のエンジンショートブロック分解組立及び VC72PROⅢのセールスポイントを研修を行いました。

九州地区では初めての 4 ストロークの分解組立とあって、部品構成や機能・機構について学び実践に役に立つと、目の色が変わり熱心に講師の話に耳を傾ける様子が印象的で中身の濃い充実した講習会でした。

ご参加頂いた特約販売店の皆様、大変お疲れ様でした。(防災九州/荒田)



～東北トーハツポンプセールス～



東北トーハツポンプ会では、昨年度の冬季総会にてセールス講習会を開催してほしいというご要望があり、去る 9 月 8 日 (木)、9 日 (金) の両日、仙台市卸町会館にてセールス講習会を開催致しました。

講習内容は、主に国からの補助事業や財政に関わる内容を行いました。

国庫補助がなくなった今小型ポンプの更新年数が年々長くなり、今回の講習会内容を購入窓口で説明し更新年数を短くする働きかけをお願い致します。

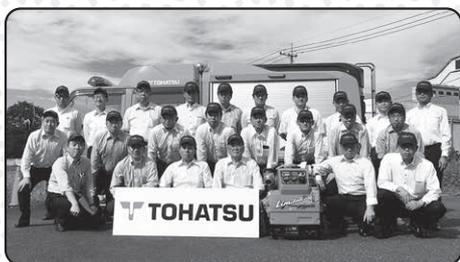
参加者の方々から講習会を終えて実際の現場で役に立つとご好評いただきました。

ご参加頂いた皆様、大変お疲れ様でした。

(防災東北/田中)

～山形県消防協会東南村山支部施設～

去る 10 月 6 日 (木)、トーハツ本社にて昨年に引き続き山形県消防協会の皆様が弊社を視察にお越しくださいました。今年は、最新の中継ポンプと 4 月発売の VC72PROⅢを模擬操法し、性能の高さを体験して頂きました。吸水の速さには驚きを隠せない様子でした。来年度も是非ともお越し頂けることを楽しみにしております。



ご参加頂いた皆様大変お疲れ様でした。今後もトーハツ製ポンプを宜しくお願い申し上げます。(防災東北/田中)

～関西トーハツポンプ会～

8 月 3 日 (水) に徳島 J A 会館で、翌日の 8 月 4 日 (木) は大阪会場の OMM ビル会議室にて平成 28 年度関西トーハツポンプ会主催の技術講習会を開催致しました。

講習会では V F 用エンジンの分解と組立てを行い、また講習会に合わせて技術委員会の意見交換会も行われ、横田技術委員と各販売店の技術委員担当者間で日ごろの疑問点や改善点について積極的な意見が交わされました。技術講習会の場で修理技術の習得だけでなく、これまでは無かった意見交換の機会ができたことで製品知識等も深める貴重な時間となりました。

ご多忙の中、また遠方まで参加頂きまして有難うございました。

(防災関西/田村)



◎平成28年度東北トーハツポンプ会秋季総会



平成 28 年度東北トーハツポンプ会秋季総会が去る 10 月 13 日 (木)～15 日 (土) の 3 日間で開催。

1 日目はトーハツ駒ヶ根工場及び船外機工場を視察し初めて工場見学された方は敷地の大きさに圧倒されていました。その夜は駒ヶ根温泉に宿泊し懇親会を行い地元

の日本酒を頂き懇親を深めました。2 日目は、長野オリンピック会場で全国消防操法大会を視察。やはり全国優勝はトーハツ。

その晩は長野市内のホテルにて昨晩より美味しいお酒を飲むことが出来ました。これも全て全国特約販売店及び協力店の努力の結果です。大変感謝致します。最終日の 3 日目は長野市内観光し帰路につきました。皆様には遠路ご出席を賜り誠にありがとうございました。(防災東北/田中)

◎トーハツポンプ中央会秋期総会開催

去る 11 月 25 日 (金) に茨城県は大洗町にある鷗松亭にてトーハツポンプ中央会秋期総会が開催されました。

総会の第一部では事業報告並びに来期の事業計画の検討を行い、第二部では各会員の近況並びに来期の見込みについての報告を行い情報交換を行いました。総会終了後は太平洋を一望できる温泉に入った後、あんこう鍋に舌鼓を打ちつつ会員同士の親交を温めました。

今回の総会開催にあたり、会場のご紹介を頂きましたトキワ産業 (株) はじめ、お忙しい中ご参集頂きました会員の皆様には誌上にて改めて御礼申し上げます。(防災中央/金子)



第 9 回 International Security & Fire Safety Exhibition が開催



2016 年 9 月 21 日 (水)～24 日 (土)、ベトナム・ハノイにて第 9 回 International Security & Fire Safety Exhibition が開催され、弊社ブースでは V20D 2S、VC72AS 並びに VC82AS を展示致しました。今年はベトナム消防警察 (PCCC) が 55 周年との事で、盛大なセレモニーが開催され、多くの PCCC 幹部の方々が登場されました。また多くの PCCC 幹部の皆様が弊社ブースを訪れ、製品に関し熱心に質問を繰り返され、弊社製品への期待と注目度の高さを改めて実感する機会となりました。展示会終盤には、弊社のベトナム消防発展への貢献に対し、ベトナム消防警察・Doan Viet Manh 長官より盾を賜る機会を頂き、大変有意義な展示会出展となりました。(防災営業部海外課/小野澤)



納入しました

新潟県阿賀野市 10台口



去る10月30日(日)に新潟県阿賀野市にてデッキバン10台口を納入致しました。当日は天気にも恵まれ新車導入にふさわしい日となりました。

納入した車両は荷台上面がハードルーフ仕様で油圧昇降装置にVF63AS搭載し、饜装した照明器具は全てLED式を採用しております。また、車両左側には鉄製の大型収納庫も装備し、装備品の積載能力にも配慮しております。

団員様も新車導入に伴い、地域の防災力向上を意識した力強い選手宣誓的な発言をいたしました。

納入に際してご尽力頂いた阿賀野市様には御礼申し上げます。

(船山(株)新潟支店/小形)

大阪府八尾市 28台口



大阪府八尾市の自主防災会向けにV20Eの購入があり、10月25日(火)と26日(水)の2日間で八尾市内の28か所へ納入しました。毎年10台前後での更新でしたが、今年度は地域防災力の強化ということで予算が付き、28台という大口案件の納入となりました。

大規模災害時は、消防署による各地域への消火や救助活動が困難となるため、地域の自主防災組織が活動できるよう、市内の各小学校にポンプが設置されました。非常時はプールを水源として消火活動を行う計画で、各地で高まる防災意識を改めて実感することができました。

販売にご尽力頂きました(株)マトイ防災様には改めてお礼申し上げます。

(防災関西/田村)

新潟県佐渡市 5台



新潟県は朱鷺で有名な佐渡島の佐渡市に去る11月22日(火)、デッキバンを5台納入させて頂きました。今回の製作にあたって車両とポンプの充電器を車両に搭載し維持管理の労力の低減にも配慮しております。またデッキバンは全天候型キャビンと小回りが利くため車両機動性が高く今後の活躍に期待が出来ると思います。

今回の納入にご尽力頂いた佐渡市消防本部様並びに大昭商事様には厚く御礼申し上げます。

(防災中央/金子)

駒ヶ根工場見学



長野県上田市女性消防隊正副隊長御一行様

去る10月28日(金)、冷たい雨が降る中、長野県上田市女性消防隊正副隊長御一行様が駒ヶ根工場見学に訪問されました。

一行は工場見学を一通りされた後にV10Gを実際にエンジンを掛けてもらい、操作も体験して頂きました。普段は使い慣れていない事もあり、おっかなびっくり操作されていましたが、一度感覚をつかむと皆さんラクにエンジンを始動させる事が可能になり、工場見学を終えて帰宅の途につかれました。

皆様お疲れ様でした。

(防災中央/金子)

高知県仁淀川町消防団様、滋賀県草津市消防団様

10月13日(木)に高知県仁淀川町と滋賀県草津市の消防団幹部と関係者による合同の工場見学に来て頂きました。翌日の長野市で開催の全国操法大会見学に合わせての行程で、日ごろからの防災意識や消防ポンプについて関心の高さを実感しました。

まず初めに松原工場長の挨拶と会社案内の後、船外機の組立てラインを見て頂き、自動化された組み立て工程や運転試験の状況をご覧頂きました。その後ポンプ棟に移動し1台ずつ手作りで組み立てる消防ポンプの製造工程や運転場での試運転などの様子を非常に興味深く見ている姿が印象的でした。限られた時間の中での見学でしたが様々な質問を頂き、改めて消防ポンプの知識を深めて頂いたと思います。

遠方よりご訪問頂き有難うございました。

(防災関西/田村)



トーハツ陸上部の高梨さんが 総合優勝

今年で第4回目となる駒ヶ根ハーフマラソンが9月25日(日)に開催され、トーハツ陸上部所属の高梨良介さん(トーハツマリン製造第二課)がハーフマラソンの部で、優勝という最高の成績を残されました。

前回大会では、2位という成績で優勝を逃す悔しい思いをしましたが、前回の優勝タイムを上回る、70分12秒の大会新記録でした。また、前半から積極的にハイペースな走りをして3km手前で単独となり、ゴールまで1度も前を譲ることなく後方に3分以上引き離しての完璧なレース内容でした。

高梨さんは入社から1年半が経過して仕事にも慣れて、自分の生活スタイルがある程度確率されてきたことで練習にも集中できるようになってきたことが、勝因と話しておりました。今後は長野県内の大会だけでなく、県外の大会にも積極的に出て上位を目指していきたいと抱負を語っておりました。

会社からの支援に感謝し、今後も会社の広告塔として活躍していきたいと、意気込む高梨さん。今後更なる活躍に是非期待していきたいと思っております。

(トーハツマリン総務課/池上)

産業展 2016

危機管理

2016年10月19日(水)から21日(金)まで東京ビッグサイトにて危機管理産業展が開催され、トーハツ株式会社も出展いたしました。のべ来場者数は、昨年の57,471人を上回る59,780人を数えました。熊本地震や風水害など頻発する自然災害、目を疑うような凶悪犯罪、近年頻発するサイバー攻撃など様々なリスクに対する世間、企業、行政の関心の高さがうかがえます。

トーハツの展示は、「水陸両用車(遠隔操縦ロボ搭載)」「新運転免許対応 消防積載車」「可搬消防ポンプ(VC72PROⅢ、V10G台車セット)」「防災資機材(ミニフローティングストレーナー、浄水器等)」「組立式2分割ポート、2馬力船外機」「トーハツクラウドサービス」「地震体験車デモ動画」など多岐にわたる製商品の展示を行いました。

今回の目玉は「新運転免許対応消防積載車」です。2017年3月12日に改正道路交通法が施行され“準中型免許”制度が新設されます。新免許制度移行後に免許を取得する方は、普通免許では、車両総重量3.5t未満に引き下げられてしまいます。新たに免許を取った方でも運転できるよう車両総重量を3.5t未満に抑えた車両を開発いたしました。車両の特徴としては、後部機装箇所にアルミ材を使用して重量を軽減しているため、消防・救助資機材の搭載が可能となっています。また、オプション設定となりますが固定配管にも対応しております。

その他の展示物もお客様に、使用している様子を見て・触れて・感じることができるよう工夫を凝らす展示を行いました。

期間中は販売店様並びにご関係者様が数多くご来場していただきましたことを誌上にて厚く御礼申し上げます。

(消防車両課/白澤)



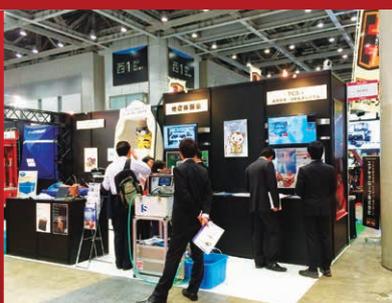
新運転免許対応車



水陸両用車



ポンプ・防災資機材



TCS-I等

欧州ディストリビューター ミーティング

European Distributor Meeting

* EU Distributor Meeting開催

『ディーラー/ディストリビューターのTohatsuブランドに対するロイヤリティを向上させるには?』船外機を販売するメーカー誰もが自問自答するべき質問である。

近年テクノロジーの進歩が著しく進む中、質の悪い船外機を作るメーカーは少なくなってきた。かつては2ストロークエンジンよりも遥かに重いとされていた4ストロークエンジンも、2ストロークのそれと遜色なくなってきたと耳にする機会が増えてきているように感じるのも、テクノロジーの進歩にほかならないのではないだろうか。どのメーカーも一定水準の品質の船外機を製造しているという事実は、些細なことでブランドが淘汰され得るといったことと表裏一体であり、Tohatsu特有の製品の付加価値及びディーラー/ディストリビューターのロイヤリティの向上なくして生き残るすべはない。

2016年10月11日(火)、12日(水)にかけて、ギリシャのアテネにて開催された第2回Tohatsu EU Distributor Meetingは、上記の問いに対して数ある答えの中、最も効果的なものであると感じる。以下に、当方がTohatsu America Corp.というTohatsu Corp.の一ディストリビューターとして参加した感想を述べたい。

* 欧州向け新製品の製品説明、展示並びにデモ

『百聞は一見に如かず』という諺があるが、その『一見』をより一層際立たせたのは、佐藤主任によって行われた製品説明プレゼンがあったために他ならない。

2017年欧州向け新モデルとして発表するのは計3種類であり、ミーティング会場での展示並びに屋外でのデモも行った。生憎の強風で、ディストリビューター全員がデモを行えるという結果には至らなかったが、製品説明・展示・デモの流れは、事前準備を含め非常にスムーズに行われ、悪天候の影響も感じさせないほど洗練されたものであったと感じる。また、当該両モデルに対するフィードバックは概ね良好であり、2017年の販売が期待できそうである。

* 欧州中期販売戦略“New Horizon 2019”

当該ミーティングにおいて、各ディストリビューターが最も注目を向けていたと感じるのは、牧部長よりプレゼンされた欧州中期販売戦略“New Horizon 2019”に他ならない。その名の通り、2017年から2019年の向こう3年間のHorizon(展望)を描き、聞き手の関心を掻き立てるよう命名されたタグラインである。

プレゼン内容は欧州に於ける2019年までの販売戦略が単純明快に記され且つ、ディストリビューターミーティング参加者のみしか知り得ない情報も共有されたことから、各ディストリビューターからは当該ミーティングを高く評価する声が非常に多く聞かれた。当該プレゼンによりTohatsu Corp.に対する期待を一層大きくした者も少なくないのではないだろうか。

* Distributor Success Story

ミーティング会場でのプレゼン最後を締めくくったのは、各ディストリビューターから行われたBFT及びMFS40/50Aモデル販売におけるSuccess Storyである。どのディストリビューターも、『各国・地域においてどのようにTohatsu船外機の販促活動を行っているか』という具体的な事例を挙げプレゼンを行っており、様々なアイデアが共有されたのではと感じる。これまではManufacturer(製造者)⇔Distributor(代理店)のコミュニケーションが多かったが、当該ミーティングにおいてはDistributor間のコミュニケーションが可能となり、他国・地域での販促活動に今後の自国で何ができるかというヒントを見出すディストリビューターも多かったのではないかと感じる。

(TOHATSU AMERICA CORPORATION / 多田)

発行

〒174-0051 東京都板橋区小豆沢 3-5-4
TEL (03) 3966-3116 / FAX (03) 3966-0090

トーハツ株式会社
トーハツパートナー編集局
編集兼発行責任者 牧 邦治/青山 滋